

第2土曜科学教室（1月13日実施）

プログラミング教室～ロボホンとなぞなぞをしよう～

茨木市教育センター

今回はシャープマーケティングジャパン株式会社の協力のもと、ロボット型のフォン（電話）として開発されたロボホンを用いた科学教室を行いました。

1 簡単なプログラミングを行ってみよう

ロボホンをコンピュータと接続しプログラミングソフト「スクラッチ」を使って、プログラミング体験をします。

まずは、既に動作として組み込まれている「逆立ち」や「歌を歌う」等のプログラムをロボホンで実行し、基本的なプログラミングの手順を習得しました。簡単な操作でプログラミングできるので「逆立ち」を行った後に「歌を歌う」など、複数のプログラムを組み合わせ、楽しんでいるグループもありました。

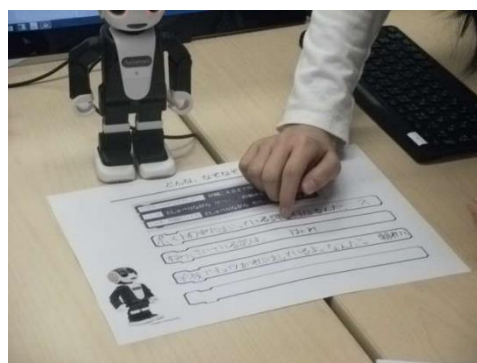


2 ロボホンとなぞなぞをしよう

講師が用意したなぞなぞを行うためのプログラムをロボホンに入力すると、ロボホンはすぐになぞなぞを出して、すぐに自分で答えてしまいます。これでは、なぞなぞになりません。そこで、どのようにプログラムを修正すればよいのかについてグループで考えました。

グループごとに話し合いを行い、作成した修正プログラムを入力しては動作を確認し、改善点を見つけてはプログラムを修正するという試行錯誤を繰り返しました。結果、なぞなぞの内容を変えたグループもあれば、「ロボホン、なぞなぞしよう」と呼びかけるとロボホンがなぞなぞを出すようにしたグループ、正解が出ると歌を歌うようにしたグループなどさまざまなプログラムが完成しました。

全グループが完成したところで、各グループで作成されたプログラムを自分のグループのロボホンに入力し、各グループのプログラミングの工夫を楽しみました。



3 まとめ

最後に、ロボホンが実際に活躍している場面として観光案内で活用されていることや、ロボホン以外にも音声に反応して動くプログラミングがされている機器が増えていることについて紹介いただきました。